

スサノオとイソタケル

五十猛神の 真相に迫る

いそたけるのかみ

三井 淳

②

イソタケルに関するこ
は、前回①で示した通り、
日本書紀の記述が全てであ
る。これ以外のエピソード

があるとするれば、それは後
世の拡大解釈か、イソタケ
ルの御事蹟(ごじせき)が
伝えられている地方地方の
異伝逸伝、ということにな
る。

イソタケル、スサノオな
ど神々の表記は、煩雑を避
ける意図から、全てカタカ
ナとする。日本書紀では
「五十猛」を「イタケル」
と訓じているが、書き手が
五十猛町(いそたけちよこ)
の者ということに免じても
らうて、全て「イソタケル」
とさせていた。更に、
前回の日本書紀抜粋文につ

き、字数の関係上全て訓を
割愛した。以降再度の引用
のために、訓を復活させる。
日本書紀によると、イソ
タケルとは、日本全土を尽
(ことごと)く青山に満つ
る沃土(よくと)に化成し
た、植林の神様ということ
になる。そしてその苗木の
本(もと)は、全て父スサ

ノオの体から生み出された
ものであるが、この場合の
スサノオは、列島緑化の命
令者であり、スポンサーな
のであって、実行者ではな
い。実行者は、一書(ある
ふみ)の第四では、偏にイ

ソタケルのみであり、その
功績により「有功神(いさ
おしのかみ)」の称号を賜
るのである。日本書紀に明
記は無いが、その下賜者が
スサノオであることは、文
脈から見ても明白である。し
かし、一書の第五では、イ
ソタケルの妹(いろも)オ
オヤツヒメとツマツヒメも、
イソタケルの御事業に与
を言つ。

平田篤胤は折に触れ「ス
サノオ」=「イソタケル」
論を展開しているが(古史
伝など)、その前提として、
「福津日神(まがつひのか
み)」のことを言わねばな
らない。
イソタケルは通常スサノ
オの子とされるが、実はス
みついあつし)

■日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おすすぬ新書
◇木曜日は内藤博之さんの「ガウディとピナ